

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年2月26日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3891000063
事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ)
(ユニット名)	なのはな
記入者(管理者)	
氏名	徳田 茂美
自己評価作成日	H31年 1月 31日

<p>【事業所理念】</p> <p>住み慣れた地域 人間としての尊厳を大切に ゆったりとした環境の中で なじみのスタッフと生活を共にし 生活の再編を目指すお家です。</p> <p>いつも にこにこ ぽかぽか家 族</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①家族と一緒に利用者を支えて行くために、面会の少ないご家族には、何か理由を見つけては電話をかけて、近況報告を行い、意向や意見等を確認するようにした。また、機会がある度に、行事へ参加をお願いし少しでもホームに足を運んで貰えるようお願いした。結果、少しずつ面会も増えてきている。</p> <p>②「地域の方との交流を増やしたい」を、目標に地域での行事に積極的に参加し、顔を合わせる機会を増やした。新しい区長さんが協力的な方で何かしら声を掛けてくださり、ホームにも訪問して下さる様になった。年末に開催しているホームでの餅つき大会にも、区長さんをはじめ地域の奥さん3名がお手伝いに来てくださった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>国道から山あいの道上がった静かな環境にある開設8年目の事業所であり、海を眺めながら四季折々の草花の景色や山菜採りなどが楽しめる環境である。残存機能を活かしてできることは積極的に利用者に行ってもらい、意欲や生き生きとした表情が見られるように職員全員で取り組んでいる。勤務歴が長い職員が多く、チームで気持ちよく仕事ができるような人間関係が構築できており、地域行事に積極的に参加し交流を図るなど、地域とのつながりを深めるよう努めている。</p>
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人・家族に希望や意向を聞き把握に努めている。	○	/	○	日々、どのように過ごしたいかを問いかけて思いや意向を確認している。家族からの情報や利用者の生活歴からも把握するよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情を観察し言葉を聞き逃さないように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	電話や面会時に状況報告を行い、相談させてもらっている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	センター方式を利用し情報を整理している。職員間の情報の共有には、申し送りノートを利用している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	月1回のカンファレンスで利用者の状況を話し合い、ケアの見直しを行っている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	居宅のケアマネさんからの情報や本人・家族からの聞き取った情報をセンター方式を利用し整理している。	/	/	○	利用者や家族、入居前に関わっていたサービス事業所などから生活歴やこだわりなどを聞き記録し、職員全員が情報を共有するよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	生活の様子を観察し、残された力を見つけ把握するよう努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	表情や言葉、態度を観察し、気持ちの変化を見逃さないように努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	利用者の担当者を中心に、カンファレンスを実施し話し合うようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	基本となる日課に添って本人のペースで過ごせるよう支援している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人・ご家族の意向を確認しカンファレンスなどで検討している	/	/	○	何を求めているか利用者の視点で話し合い検討し、追加の情報は誰が見ても分かりやすいよう赤で記入し、把握・共有するよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	生活を送る中で気付いたことをカンファレンスなどで検討している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	新しく見つけた課題については、その都度、職員間で解決できるよう話し合っている	/	/	/	

愛媛県グループホームぽかぽか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	意向に沿って計画書を作成している	/	/	/	利用者や家族の希望など、それぞれの思いが盛り込まれた介護計画を管理者や介護支援専門員、担当職員が関わり作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	定期的に本人家族に意向を伺い計画書を作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	無理の無い程度に離床する時間を作り、寝たきりにならず、他の利用者との交流が図れるよう支援している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の協力体制は盛り込まれていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	各利用者の担当者を中心に作成し、職員で共有できている。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画を職員全員で把握・共有している。介護計画の内容を理解し、介護計画に沿ったサービス内容が実践できているか、毎日チェック表に記入して職員間で状況の確認を行っている。日々の記録には利用者の様子や言葉などを記入しており、職員の気づきなどは情報共有しやすいよう申し送りノートに記入している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日 サービス内容が実施できたかどうかチェック表を作成し記録と共に確認できるようにしている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	いつも違う様子が見られたりした場合には、状況や対応の内容をきちんと記録に残している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	全員が閲覧できる申し送りノートにも記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月・6か月間隔で見直しを行っている。状態に変化があった場合にはその都度、見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は6か月毎に見直ししている。毎月カンファレンスにて現状確認を行っている。利用者の状態に変化があった場合はその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ケアカンファレンスにて確認を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状況に応じて計画の見直しを行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	全員が揃うのは難しいため、意見を個々に聞くようにしている	/	/	△	職員一人ひとりから個別に意見を聞くなどチームとしてのケアに努めているが、定期的なミーティングなど、なるべく多くの職員が集まれる場を作って話し合い、情報を共有するよう努めて欲しい。参加できない職員には、申し送りノート等により確実に伝達できるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	一人一人が意見を発表できるよう進行している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	調整はしているが、難しい。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送りノートや口頭で伝達している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートや業務日誌を利用し共有している	/	/	○	申し送りノートや業務日誌に記入した情報は、速やかに確認・サインするよう努めており、職員全員が情報共有できるように取り組んでいる。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートや業務日誌を利用し情報の伝達を行っている	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	出来る限り本人の希望を確認するようにしている。	/	/	/	日々の過ごし方や食べたいものなど、日常生活の中で利用者が選べる機会を作って、一人ひとりの好きなことや望むことを支援している。利用者の得意なことなどを把握し、役割を持ってもらうことで意欲を引き出し、生きがいを感じてもらおう声かけにも工夫して支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクや家事の手伝いなど本人に何がしたいか?を選んで貰っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	問いかける声掛けを行い、本人にどうしたいか・何がしたいかを選択してもらえるようにしている。意思を伝えられない方には、表情を確認させてもらっている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	出来る限り、本人のペースで過ごせるよう支援しているが、トイレ誘導はある程度時間を決めて順に誘導している。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	感謝の言葉かけを心掛け、一緒に歌やレクを実施しながら会話が出来る時間を作っている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思の疎通が難しい方であっても、声掛けを忘れず、表情を確認するように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	声のトーン・大きさ・口調に気をつけている。時に耳の遠い方に対して大きな声になる事があるため、職員間で注意し合うよう気をつけている。	○	○	△	職員は利用者の人権やプライバシーを尊重した対応を心がけているが、トイレ誘導等の状況により声の大きさなど気になる時があるため、今後は利用者の誇り等を尊重し、さりげない声かけを徹底するよう努めて欲しい。居室に出入りの際のノックや声かけができていないことがあるため、職員全員で徹底するよう努めることに期待したい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	声の大きさに気をつけているが、つい耳の遠い方に対し大きな声になってしまうこともある。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	入浴に関しては嫌がる方には、同姓介助を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室は換気意外は戸を閉めている。入室時にはノックを心がけているが、留守の部屋には出来ない事もある	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	書類関係の管理に気をつけている。外部からの問い合わせに対しても十分に気をつけて対応している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	して頂いたことに対して感謝の気持ちを言葉にしている。利用者それぞれが出来る事をして、助け合いながら生活されている。季節ごとの風習など教えられる事も多い。	/	/	/	利用者同士の関係性を把握して座席の配置などに配慮している。トラブルになったり、孤立したりしないよう職員が声をかけるなど、利用者同士が良好な関係を築けるよう配慮した支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士がお互いに出来る事をして助け合いながら生活が送れるよう支援している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	リビングでの席の配置に注意している。コミュニケーションが図れない方には、職員が寄り添う時間を作っている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起こった場合は、職員が中に入り対応している。場合によっては席替えなどを行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームぽかぽか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	センター方式を利用し情報を集め把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	センター方式を利用し情報収集を行っているが、利用者によって十分に把握できていない方もいる	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	地域での行事に参加しているが、個人的に馴染みの場所へ出かけることは出来ていない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会はいつでもでき、自室や応接室でゆっくり時間を気にせず過ごしてもらえるよう配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日は、屋外に出て車椅子で日向ぼっこしたり、近所を散歩したりしている。	○	○	○	重度の利用者も含め、利用者の希望で買い物に出かけたり、近所の散歩や季節の山菜取りに出かけたりして過ごしている。事業所の中だけでなく、外の空気や景色を楽しみ、気分転換を図ってもらえるよう取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	外出は殆ど職員が対応しているが、地域の行事に参加した時は、近所の方が見守り兼ねておしゃべりをされる事もある。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	負担にならない程度に離床して頂き屋外で過ごす時間を作っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族同伴で自由に外出できるようにしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者一人ひとりの状況を把握し、ストレスとならない関わり方が出来るよう気をつけている。見つけた課題については担当者を中心に検討し解決できるようにしている	/	/	/	食事をテーブルまで運ぶことができる利用者は、配膳と下膳を自分で行うようにしている。職員は利用者のできることやできそうなことを大切に、日常生活をなるべく自分で行えるよう環境づくりや働きかけを行うなど、利用者の意欲を促すよう取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	車椅子の自走訓練・立位訓練・椅子への移乗など生活リハビリを実施しながら維持を図っている。食事の介助も最初から手伝わす、自力摂取を支援している	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	車椅子の方が多いが、可能な限り移動は自走をして貰っている。食事介助も最初から手を出さず自力摂取の声掛けを行っている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	家事仕事を中心に利用者が得意な事・望まれる事を役割として行って頂いている。	/	/	/	掃除や調理の下準備、洗濯物たたみなど、できることをそれぞれの役割として担ってもらい、張り合いのある毎日が過ごせるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	洗濯物や廊下拭き掃除・自室の掃除・野菜切りなどが日課になっており、一人ひとりが出来る事を協力して行っている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	挨拶ぐらいはあるが、役割としては係れていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	可能な方には、希望を確認して着替えをして頂いている。それぞれの好みの把握に努めている。	/	/	/	衣服の乱れや食べこぼしなどは、プライドを傷つけないようさりげなく整えるよう支援に努めている。重度の利用者も訪問理容で好みの髪型にしたり、装いにするなど、その人らしさが保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	本人の希望を確認しているが自己決定が難しいため十分ではない	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	職員が用意した服を本人に確認してもらっている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に応じた服装で外出できるよう支援している	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声かけし誘導している。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	現在は、定期的にボランティアの方が散髪に来てくれている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	清潔を保てるよう気をつけている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べる事を楽しみにしている利用者が多い。一人ひとりに適したあった形態で提供している。	/	/	/	食材の買い物から調理の下準備、後片付けまでを利用者と一緒に行っている。毎日の献立は調理専門の職員がその日ある食材で考えて調理しているが、日によっては地域の方からいただいた野菜で利用者と一緒に関立を考えたり、旬の食材を使った料理を楽しんだりしている。食器は利用者一人ひとり使いやすいものを使用している。職員は利用者と一緒に会話しながら楽しそうに食事をしており、重度の利用者にも食事の内容や雰囲気味わえるよう献立の話をするよう心がけている。栄養面等のアドバイスを栄養士から受けることはなく、職員間で話し合うこともないため、定期的に栄養バランス等を振り返るなど、検討する機会を持つことが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	その日に使う野菜を刻んで貰ったり、可能な方は、自分で配膳下膳を行い洗い物まで行っている。車椅子の方には、食器拭きなど出来る事をして貰っている。	/	/	◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食事の後の食器拭きが、日課となっている。利用者から「拭くもの無いですか？」の声がかかる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前のアセスメントで確認している。苦手なものについては気をつけて提供している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立はその日の調理担当者が決めている。そのため旬の野菜を続けて提供する事もあるが、味付けや調理方法を工夫してくれている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	利用者一人ひとりの状態に適した携帯で提供している。(刻み・荒刻み・小刻み・ミキサー食など)	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は事業所のものを使っているが、状態によって重さ・大きさを検討し使用してもらっている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	介助しながら一緒に食べている。時折、世間話をしながら楽しい食事の時間が提供できるよう努めている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	無理の無い程度に離床し、皆と一緒に食事が出来るようにしている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士はいないが、食事量や水分量は不足している場合には栄養補助食品等で補って貰っている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	栄養士はいないが、食事量や水分量は不足している場合には栄養補助食品等で補って貰っている。水分はお茶に限らず、いろんな物で工夫し摂取して貰っている	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士はいない。献立は調理専門の職員に任せているが、基本、揚げ物は昼に、夜は魚料理をメインに提供している。	/	/	x			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食事に関わる職員は手洗いを徹底し、体調管理も気をつけている。	/	/	/			

愛媛県グループホームぽかぽか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	内部研修にも取り上げている。毎食後の口腔ケアは習慣づけられている。	/	/	/	介助が必要な利用者だけでなく、自分で歯磨きができる利用者にも付き添い口腔内の状況を確認し清潔保持に努めているが、不十分と感じる部分もあるため、職員が異常等に早めに気付けるよう、日頃から利用者個々の口腔内の状況を確認しケアの徹底に努めて欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	完全には把握できていないが、症状の訴えがあれば、看護師に報告し受診等の対応をしている	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科衛生士の方からの講習を受けた事がある。毎食後の口腔ケアは習慣付けられている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	就寝前に洗浄液につけて手入れしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、口腔ケアの声かけを行い実施している。出来ない方は職員が介助している。	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	必要時に家族に連絡して了解をもらってから歯科医の往診又は受診に行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレでの排泄ができるよう努めている。定期的なトイレ誘導を行い清潔をが保てる支援を心がけている。	/	/	/	日中は、利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせ誘導するなど、トイレでの排泄支援に努めている。おむつやパッドの必要性について、職員間で見直しを含めて話し合い、それらに頼りすぎないように努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	排泄チェック表で管理し、看護師と連携を図っている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表で管理し、把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	使用量が増えると金銭的にも負担が増すため、一人ひとりの排泄のタイミングを把握するように努めている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	しっかり水分が摂取できるよう声掛けを行っている。日中、体を動かす機会を作っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表で管理している。訴えの出来ない利用者にはタイミングを見計らって声掛けをしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	一人ひとりの状態を把握し、使い分けしている。変更する場合は本人・家族に説明し了解を得ようとしている	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	一人ひとりの状態を把握し、使い分けしている。変更する場合は本人・家族に説明し了解を得ようとしている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	こまめな水分摂取を行って頂くために、お茶意外にジュース・コーヒーなど工夫し提供している。体を動かす機会をつくりできる限り自然排便を促している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴日の設定はあるが、その日の状態によって臨機応変に対応している。同性介助にも配慮している。	◎	/	○	入浴日は決めているが、利用者の希望があれば浴えるよう努めている。車椅子の利用者も職員2人体制で介助し、湯船に浸かり温まってもらえるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	入浴中に会話を交えながらゆっくり湯舟に浸かりくつろげるよう支援している	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	可能な範囲は自力で洗って頂いている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	様子を見て声掛けを行い、拒否される時は無理強いしないようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルを確認し、看護師と相談しながら介助している。	/	/	/	

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録や申し送りにて把握している	/	/	/	不眠が続きやむを得ない場合は、主治医に相談し薬剤を処方してもらうことはあるが、日中活動量を増やすなど、安易に薬剤に頼りすぎない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転を防ぐよう日中の活動を増やせる支援に努めている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の活動を増やし、薬に頼らなくても睡眠が取れるよう支援している。往診時に状態を報告し、服薬の調整も行っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	昼食後に休憩時間を設けている。自由に自分の時間を過ごして頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	希望される場合は支援している	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	家族に電話をした時に、本人に変わって声を聞いてもらったりしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	希望される時に支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	手紙の返事を書くのは難しいため、電話で対応している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	不穏時に家族の声を聞くと落ち着かれる方もいるため、家族に協力をお願いする事もある	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	お金は所持していないが、買い物への同行は交代で行っている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	買い物に交代で同行してレジと一緒に並んで支払いをして貰っている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	大型スーパーでは難しいが、地域のお店では声を掛けて頂いている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	高額のお金は所持しないか、事務所で預かっている。買い物に同行されたときに欲しいものを購入できるように支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	所持している方は、金額を把握させて貰っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理できる方が少なく、必要な物は家族に了解を頂きホームで立て替えて購入するようにしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族の都合で受診が難しい場合などホームで対応している	◎	/	○	病院受診や墓参り等、家族の付き添いができない場合は、職員が同行するなど、柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	玄関を自由に入出入りできるよう開放しており、階段に花を飾ったり水槽を設置したりしている	◎	○	○	階段に花を飾ったり玄関軒下の水槽で金魚を飼育したりすることで、来訪者の気持ちを和ませており、入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	室内の装飾は、利用者が季節ごとに作成した作品を飾り、花を飾って利用者が水遣りなどの世話が出来るようにしている	○	○	○	利用者の季節ごとの作品が壁に飾られているほか、季節の花を飾るなど、家庭的な雰囲気になっている。毎日利用者が廊下や居室を自分で清掃するほか、定期的に換気を行うなど清潔感が感じられる。桃の節句には、ひな人形が両ユニット共有の畳コーナーに飾られるなど、季節感が感じられ家庭的な雰囲気になっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日利用者と一緒に掃除を行っている。定期的に換気を行い臭いにも注意している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビング中央には畳みの間があり、季節のクラフトを飾ったりお雛様や兜飾りを時期に合わせて展示したりしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	座席は決まってはいるが、状況に応じて自由に移動し談笑できるようにしている。自由に居室に戻り過ごして頂いている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	構造上、見えないようになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	タンスや鏡台など自宅で使い慣れた物を持参したり、クラフト作品や写真を飾っている	○	/	/	たんすやベッド、テレビ等が備え付けられ、馴染みの家具など使い慣れたものや思い出の写真を置いており、利用者にとって居心地良く過ごせる居室になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ホーム廊下には安心して歩けるよう手すりをつけ、障害となる物を置かないように気をつけている。車椅子がすれ違う事の出来る幅を確保している。	/	/	○	車椅子利用者も自走でき、トイレでの立ち上がり際には立位訓練を取り入れるなど、生活の中でできるリハビリに取り組んでもらっている。居室やトイレの入口をわかりやすく表示し、廊下の足元等には障害物を置かないようにするなど、利用者が安全に自立した生活が送れるよう支援している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室のつくりやデザインが一緒であるため、入口に大きく名前を表示している。トイレやお風呂にも分りやすく大きく表示している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	掃除道具・レクの道具・個々のコップやお膳など、分りやすい所において、必要ときにいつでも取れるようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	日中はすべてを開錠している。利用者・来客が自由に入出入りできるようにしている。身体拘束の内部研修を行い施錠することの弊害について学んでいる。また、職員は離脱事故のないよう気を付けている。	◎	◎	◎	職員は玄関に鍵をかけることの弊害について理解しており、日中玄関は施錠されておらず、自由に入出入りできるようになっている。職員は、利用者が外出したい時に希望に沿えるよう、常に寄り添い同行するなど安全確保に努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	現在、施錠を望むご家族はおりませんが、その際にはきちんと見守りを行い安全確保に努めていることを説明し理解して頂くよう努める。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	ストレスとならないように、自由に入出入りできるようにしている。その際には、さりげなく見守りを行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個人別にファイルを作成いつでも見られるようにしているが把握できていない職員もいると思う。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	変化や異常が見られた場合、職員間で情報を共有できるよう介護記録に記入している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	異変時は看護師へ報告し、適切な医療・看護を提供できるよう努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	希望のある場合、入所前からのかかりつけ医が受診できるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	かかりつけ医には必要な情報を提供し適切な医療が受けられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	緊急時には受診に立ち会って頂き、結果と一緒に聞いてもらっている。その他の受診結果は、受診に同行した職員から詳しく報告し説明している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時情報提供所を作成し情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	ケアマネを中心に病院関係者との連携を図っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	救急病院への搬送が多く関係づくりはあまり出来ていない				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気になることは看護師に報告している。看護師より協力医に上申し指示を受けるようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間オンコール体制を取っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	早期に異変に気付けるよう注意観察している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	薬情は見られるようになっているが、すべて把握できている職員は少ないと思う				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋の名前を確認しながら誤薬の無いよう気を付けている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	何らかの変化が見られる場合は、看護師に報告し対応している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	緩下剤については看護師と相談し調整している。				

愛媛県グループホームぽかぽか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態が変化することにより、ご家族・利用者への意向確認を行っている	/	/	/	利用者や家族の希望に寄り添いながら看取り支援を行っており、主治医や看護師、職員等関係者を交え、重度化や終末期等の対応について話し合い方針を共有している。終末期に家族が利用者の居室に泊まれるよう配慮するなど、穏やかに最期を迎えられるよう支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	家族・協力医・看護師・管理者等で利用者の状況を話し合い今後の方針を決めている。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	協力医・看護師の指示のもと、係わる職員それぞれが、できる事で利用者を支えていければいいと思っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取り期に入る前に、きちんとホームで出来る事を説明している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	看護師を中心に連携が図れている。利用者と家族と一緒に過ごしやすい環境作りにも努めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時は報告を兼ねて話をする時間を作っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	年1回内部研修を実施し勉強している。実践形式での研修も行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症対応マニュアルを作成している。偽吐しゃ物のふき取り方や汚物の処理方法を実践し訓練している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	市町村からの情報や地域での発生状況を確認しながら、予防に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の学校での発生状況などを参考にしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	来客用に玄関先にマスク・消毒液を設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	気分転換に外出をお願いしたり、ホームのイベントに参加してもらい一緒に過ごす機会を作っている。	/	/	/	おかしづくりや餅つき大会など事業所の行事に、利用者と一緒に過ごしてもらえるよう家族に案内している。定期的にホーム新聞を送付し、電話連絡なども行い事業所での利用者の様子を伝えている。職員の異動や設備の改修などについては、ホーム新聞等を活用するなど、家族に報告するよう努めて欲しい。家族の面会時には、職員からの声かけを徹底し、話しやすい雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会はいつでもでき、自室や応接室でゆっくり時間を気にせず過ごしてもらえるよう配慮している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	運ご家族と利用者が一緒にお菓子作りやクラフト作成をしたり年末には餅つき大会を開催しているが、参加されるご家族は限られている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	ホーム新聞を送ったり、面会時には利用者の様子を報告している。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	家族の言葉を聞こうと心掛けているが、不十分である。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	気になる事や、ケアの方向性については、その都度ご家族に知らせるようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事の報告はしているが、利用者に負担のかからない変更事項や職員の移動等の報告は行っていない。	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	イベントへの参加を呼び掛けたりしているが、来られる家族は限られている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	面会時や電話で報告相談をさせてもらっている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時には声掛けをさせてもらっている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には、分かりやすい言葉で説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	利用者・ご家族と話し合い、利用者の状況に適した転居先を探すように努めている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	改定時には書面等でご家族に知らせ、同意を得るようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	運営推進会議やホームでの行事を機会としているが参加が少ない。	/	◎	/	毎年祭りや文化祭、運動会など、地域の行事に積極的に参加し、地域住民を事業所の餅つき大会に招待して交流するなど、地域とは深いつながりができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地区のお祭りや文化祭・運動会・その他行事に参加している。年末の餅つきにご近所さんを招待している。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	少しずつではあるが、声をかけてくれる方が増えている	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	人数は少ないが、野菜やミカンを差し入れてくれる方や、話をしに来られる方はいる。積極的に声掛けはしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	気軽にお付き合いが出来ている人は限られている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	定期的に歌や舞踊などの慰問はあるが、日常的な働きかけは行っていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の活用はあまり行っていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	同地域の特老との交流や消防署の協力・地域での買い物など取り組んではいるが、十分ではない	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	参加して下さる方は決まっており、新規で参加される方が少ない。	○	/	△	参加する家族や地域の方が限られているため、今後も声かけや日程調整を工夫するなど、参加者を増やす取組みが望まれる。運営推進会議では、外部評価の結果報告等について説明し報告している。会議で出された意見等について、事業所の運営に活かす取組みが不十分な感があるため、今後は職員間で話し合い検討する機会を設けるよう努めて欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の結果報告として推進会議で報告している。職員の自己評・外部評価の閲覧と目標達成計画の説明等を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	参加者からの意見や要望を聞くようにしている。サービスに活かせるよう取り組んでいるが報告はきちんと出ていない	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	メンバーの調整は出来ているが、日時については調整が難しく出来ていないこともある。	/	/	△	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	要望があれば閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	目に付くところに掲示している。理念にそってケアが実施できるよう取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	職員に対しては出来ているが、家族や地域の方には、わかりやすく伝えられてはいない。	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修の情報を提供している。人員不足ではあるが、シフトを調節しながら職員が交代で希望する研修に参加できるように努めている。				慰労会など、事業所外で職員同士が交流する機会を作っているが、ストレス軽減の取組みとしては不十分な感があるため、代表が管理者や職員のストレスチェックを行うなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んで欲しい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	業務にあたりながらその都度、指導するようにしている。資格取得には出来る限り協力している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回人事考課を実施し勤務状態や努力を考慮し賞与に反映している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	同業者との交流の機会は少ない。人員不足の影響もあり参加できていない状況である。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	慰労会などを開催してくれているが、十分な取り組みは出来ていない。	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	内部研修や外部研修に参加を促し、理解に努めている。正しい知識を身に付け、不適切なケアの無いよう努めている。				職員は日頃のケアで気になることがあれば、管理者に報告して対応するなど、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順等について理解し共有しており、不適切なケアが見過ごされることがないように職員全員で徹底し、支援に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	不適切なケアについては業務にあたりながら、職員と話し合うようにしている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	気になることがあれば、管理者に報告している。職員間でも注意しあい気を付けるようにしている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ケアへの影響は出ていないが、人手不足の状況が職員に負担をかけているのが現状である。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束については年に2回は内部研修の議題に取り上げ理解に努めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束委員会で各利用者の状況を確認し、把握するよう努めている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からの拘束の要望は今までないが、もし要望があった時には、きちんと説明し納得できる代案を検討し理解してもらえる努める。				

愛媛県グループホームぽかぽか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	研修に参加したりしているが、内容が難しくすべてを理解できている職員は少ない。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族からの要望があれば、市町村の協力を得て相談に乗るようにしている。成年後見人制度は2度ほど利用している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	管理者や介護支援専門員を中心に関係機関の協力を得て相談に答えている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時マニュアルを作成し周知している。実際に起きた時は看護師と連携し対応できている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救命基礎研修を受講したり、消防署主催の研修にも可能な限り参加している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	インシデント報告書を作成し、職員間で閲覧し再発予防策を検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	その都度、職員間で情報を共有し、担当者を中心に予防策を検討し実施するようにしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルに基づき対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	受け手は責任を持って責任者に報告し対応するようにしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合には、出来る限り早期に回答できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の暮らしの中で、声掛けを行っているが、自ら相談できる利用者は少ない。	/	/	○	利用者からは、日々の生活の中で要望等を把握するようにしている。家族からは、面会時や電話で個別に意見や要望を聞いている。管理者と職員は、何でも相談できるような人間関係を築いており、職員の意見等を把握し、利用者の思いに沿えるよう職員会等で検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時や電話を掛ける際に、声掛けを行っている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	情報提供は十分には行えていない。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	頻繁に現場に足を運んでいるが、職員からは直接声をかけにくいように感じる。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	現場と一緒に業務にあたり声を聴くようにしている。提案等はプランに活かせるように取り組んでいる。	/	/	○	

愛媛県グループホームぽかぽか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	独自の項目での自己評価を年2回行っている。	/	/	/	運営推進会議で外部評価結果や目標達成計画について報告しているが、取り組み結果のモニターまでには至っていないため、今後の取り組みが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価で明らかになった議題に取り組むよう努力している。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	1つずつ実現に向けて取り組んでいるが、全体での取り組みは行っていない。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議に参加して頂いた方には報告しているが、モニターをして頂く取組は行っていない。	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議にて報告を行っている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	火災・地震・土砂災害・原子力災害のマニュアルを作成し周知している	/	/	/	緊急災害時の地域との連携はできていないのが現状である。今後は緊急災害時の利用者の安全確保に万全を期すため、地域との合同避難訓練に取り組むなど、連携強化に努めることが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間いろんな想定で年2回消防署の協力で利用者を交えて避難訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	担当者と協力し定期的に賞味期限等の点検を行い、補充している	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	地域との連携が十分には図れていない。	○	×	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	市町村合同の土砂災害の避難訓練には、参加させてもらっている	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	次回の運営推進会議を利用し、認知症サポーター養成研修を開催する予定である。	/	/	/	地域の相談支援は行っていない現状であるため、相談を受け付けていることを周知して、地域の相談ニーズ集約にも取り組んで欲しい。地域行事には参加しているが、地域関係機関等と協働の取組みは不十分なため、認知症ケアの実践力を活かしながら、市や地域包括支援センター等と連携を図って地域活動等に取り組む、地域の福祉拠点となる事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	今現在、相談等の支援は行っていない。	/	×	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用できていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	受け入れは行っていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の行事には積極的に参加するようにしているが、ホームからはあまり行動を起こせていない	/	/	△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年2月26日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3891000063
事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ)
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏名	佐々木崇(記入者 徳田 茂美)
自己評価作成日	H31年 1月 31日

<p>【事業所理念】</p> <p>住み慣れた地域 人間としての尊厳を大切に ゆったりとした環境の中で なじみのスタッフと生活を共にし 生活の再編を目指すお家です。</p> <p>いつも にこにこ ぽかぽか家 族</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①家族と一緒に利用者を支えて行くために、面会の少ないご家族には、何か理由を見つけては電話をかけて、近況報告を行い、意向や意見等を確認するようにした。また、機会がある度に、行事へ参加をお願いし少しでもホームに足を運んで貰えるようお願いした。結果、少しずつ面会も増えてきている。</p> <p>②「地域の方との交流を増やしたい」を、目標に地域での行事に積極的に参加し、顔を合わせる機会を増やした。新しい区長さんが協力的な方で何かしら声を掛けてくださり、ホームにも訪問して下さる様になった。年末に開催しているホームでの餅つき大会にも、区長さんをはじめ地域の奥さん3名がお手伝いに来てくださった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>国道から山あいの道上がった静かな環境にある開設8年目の事業所であり、海を眺めながら四季折々の草花の景色や山菜採りなどが楽しめる環境である。残存機能を活かしてできることは積極的に利用者に行ってもらい、意欲や生き生きとした表情が見られるように職員全員で取り組んでいる。勤務歴が長い職員が多く、チームで気持ちよく仕事ができるような人間関係が構築できており、地域行事に積極的に参加し交流を図るなど、地域とのつながりを深めるよう努めている。</p>
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人・家族に希望や意向を聞き把握に努めている。	○	/	○	日々、どのように過ごしたいかを問いかけて思いや意向を確認している。家族からの情報や利用者の生活歴からも把握するよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情を観察し言葉を聞き逃さないように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	電話や面会時に状況報告を行い、相談させてもらっている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	センター方式を利用し情報を整理している。職員間の情報の共有には、申し送りノートを利用している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	月1回のカンファレンスで利用者の状況を話し合い、ケアの見直しを行っている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	居宅のケアマネさんからの情報や本人・家族からの聞き取った情報をセンター方式を利用し整理している。	/	/	○	利用者や家族、入居前に関わっていたサービス事業所などから生活歴やこだわりなどを聞き記録し、職員全員が情報を共有するよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	生活の様子を観察し、残された力を見つけ把握するよう努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	表情や言葉、態度を観察し、気持ちの変化を見逃さないように努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	利用者の担当者を中心に、カンファレンスを実施し話し合うようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	基本となる日課に添って本人のペースで過ごせるよう支援している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人・ご家族の意向を確認しカンファレンスなどで検討している	/	/	○	何を求めているか利用者の視点で話し合い検討し、追加の情報は誰が見ても分かりやすいよう赤で記入し、把握・共有するよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	生活を送る中で気付いたことをカンファレンスなどで検討している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	新しく見つけた課題については、その都度、職員間で解決できるよう話し合っている	/	/	/	

愛媛県グループホームぽかぽか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	意向に沿って計画書を作成している	/	/	/	利用者や家族の希望など、それぞれの思いが盛り込まれた介護計画を管理者や介護支援専門員、担当職員が関わり作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	定期的に本人家族に意向を伺い計画書を作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	無理の無い程度に離床する時間を作り、寝たきりにならず、他の利用者との交流が図れるよう支援している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の協力体制は盛り込まれていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	各利用者の担当者を中心に作成し、職員で共有できている。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画を職員全員で把握・共有している。介護計画の内容を理解し、介護計画に沿ったサービス内容が実践できているか、毎日チェック表に記入して職員間で状況の確認を行っている。日々の記録には利用者の様子や言葉などを記入しており、職員の気づきなどは情報共有しやすいよう申し送りノートに記入している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日 サービス内容が実施できたかどうかチェック表を作成し記録と共に確認できるようにしている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	いつも違う様子が見られたりした場合には、状況や対応の内容をきちんと記録に残している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	全員が閲覧できる申し送りノートにも記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月・6か月間隔で見直しを行っている。状態に変化があった場合にはその都度、見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は6か月毎に見直ししている。毎月カンファレンスにて現状確認を行っている。利用者の状態に変化があった場合はその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ケアカンファレンスにて確認を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状況に応じて計画の見直しを行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	全員が揃うのは難しいため、意見を個々に聞くようにしている	/	/	△	職員一人ひとりから個別に意見を聞くなどチームとしてのケアに努めているが、定期的なミーティングなど、なるべく多くの職員が集まれる場を作って話し合い、情報を共有するよう努めて欲しい。参加できない職員には、申し送りノート等により確実に伝達できるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	一人一人が意見を発表できるよう進行している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	調整はしているが、難しい。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送りノートや口頭で伝達している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートや業務日誌を利用し共有している	/	/	○	申し送りノートや業務日誌に記入した情報は、速やかに確認・サインするよう努めており、職員全員が情報共有できるように取り組んでいる。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートや業務日誌を利用し情報の伝達を行っている	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	出来る限り本人の希望を確認するようにしている。	/	/	/	日々の過ごし方や食べたいものなど、日常生活の中で利用者が選べる機会を作って、一人ひとりの好きなことや望むことを支援している。利用者の得意なことなどを把握し、役割を持ってもらうことで意欲を引き出し、生きがいを感じてもらおう声かけにも工夫して支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクや家事の手伝いなど本人に何がしたいか?を選んで貰っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	問いかける声掛けを行い、本人にどうしたいか・何がしたいかを選択してもらえるようにしている。意思を伝えられない方には、表情を確認させてもらっている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	出来る限り、本人のペースで過ごせるよう支援しているが、トイレ誘導はある程度時間を決めて順に誘導している。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	感謝の言葉かけを心掛け、一緒に歌やレクを実施しながら会話が出来る時間を作っている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思の疎通が難しい方であっても、声掛けを忘れず、表情を確認するように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	声のトーン・大きさ・口調に気をつけている。時に耳の遠い方に対して大きな声になる事があるため、職員間で注意し合うよう気をつけている。	○	○	△	職員は利用者の人権やプライバシーを尊重した対応を心がけているが、トイレ誘導等の状況により声の大きさなど気になる時があるため、今後は利用者の誇り等を尊重し、さりげない声かけを徹底するよう努めて欲しい。居室に出入りの際のノックや声かけができていないことがあるため、職員全員で徹底するよう努めることに期待したい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	声の大きさに気をつけているが、つい耳の遠い方に対し大きな声になってしまうこともある。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	入浴に関しては嫌がる方には、同姓介助を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室は換気意外は戸を閉めている。入室時にはノックを心がけているが、留守の部屋には出来ない事もある	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	書類関係の管理に気をつけている。外部からの問い合わせに対しても十分に気をつけて対応している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	して頂いたことに対して感謝の気持ちを言葉にしている。利用者それぞれが出来る事をして、助け合いながら生活されている。季節ごとの風習など教えられる事も多い。	/	/	/	利用者同士の関係性を把握して座席の配置などに配慮している。トラブルになったり、孤立したりしないよう職員が声をかけるなど、利用者同士が良好な関係を築けるよう配慮した支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士がお互いに出来る事をして助け合いながら生活が送れるよう支援している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	リビングでの席の配置に注意している。コミュニケーションが図れない方には、職員が寄り添う時間を作っている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起こった場合は、職員が中に入り対応している。場合によっては席替えなどを行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームぽかぽか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	センター方式を利用し情報を集め把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	センター方式を利用し情報収集を行っているが、利用者によって十分に把握できていない方もいる	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	地域での行事に参加しているが、個人的に馴染みの場所へ出かけることは出来ていない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会はいつでもでき、自室や応接室でゆっくり時間を気にせず過ごしてもらえるよう配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日は、屋外に出て車椅子で日向ぼっこしたり、近所を散歩したりしている。	○	○	○	重度の利用者も含め、利用者の希望で買い物に出かけたり、近所の散歩や季節の山菜取りに出かけたりして過ごしている。事業所の中だけでなく、外の空気や景色を楽しみ、気分転換を図ってもらえるよう取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	外出は殆ど職員が対応しているが、地域の行事に参加した時は、近所の方が見守り兼ねておしゃべりをされる事もある。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	負担にならない程度に離床して頂き屋外で過ごす時間を作っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族同伴で自由に外出できるようにしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者一人ひとりの状況を把握し、ストレスとならない関わり方が出来るよう気をつけている。見つけた課題については担当者を中心に検討し解決できるようにしている	/	/	/	食事をテーブルまで運ぶことができる利用者は、配膳と下膳を自分で行うようにしている。職員は利用者のできることやできそうなことを大切に、日常生活をなるべく自分で行えるよう環境づくりや働きかけを行うなど、利用者の意欲を促すよう取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	車椅子の自走訓練・立位訓練・椅子への移乗など生活リハビリを実施しながら維持を図っている。食事の介助も最初から手伝わす、自力摂取を支援している	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	車椅子の方が多いが、可能な限り移動は自走をして貰っている。食事介助も最初から手を出さず自力摂取の声掛けを行っている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	家事仕事を中心に利用者が得意な事・望まれる事を役割として行って頂いている。	/	/	/	掃除や調理の下準備、洗濯物たたみなど、できることをそれぞれの役割として担ってもらい、張り合いのある毎日が過ごせるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	洗濯物や廊下拭き掃除・自室の掃除・野菜切りなどが日課になっており、一人ひとりが出来る事を協力して行っている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	挨拶ぐらいはあるが、役割としては係れていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	可能な方には、希望を確認して着替えをして頂いている。それぞれの好みの把握に努めている。	/	/	/	衣服の乱れや食べこぼしなどは、プライドを傷つけないようさりげなく整えるよう支援に努めている。重度の利用者も訪問理容で好みの髪型にしたり、装いにするなど、その人らしさが保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	本人の希望を確認しているが自己決定が難しいため十分ではない	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	職員が用意した服を本人に確認してもらっている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に応じた服装で外出できるよう支援している	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声かけし誘導している。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	現在は、定期的にボランティアの方が散髪に来てくれる	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	一番に清潔が保てるよう気をつけている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べる事を楽しみにしている利用者が多い。一人ひとりに適したあった形態で提供している。	/	/	/	食材の買い物から調理の下準備、後片付けまでを利用者と一緒に行っている。毎日の献立は調理専門の職員がその日ある食材で考えて調理しているが、日によっては地域の方からいただいた野菜で利用者と一緒に関立を考えたり、旬の食材を使った料理を楽しんだりしている。食器は利用者一人ひとり使いやすいものを使用している。職員は利用者と一緒に会話しながら楽しそうに食事をしており、重度の利用者にも食事の内容や雰囲気味わえるよう献立の話をするよう心がけている。栄養面等のアドバイスを栄養士から受けることはなく、職員間で話し合うこともないため、定期的に栄養バランス等を振り返るなど、検討する機会を持つことが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	その日に使う野菜を刻んで貰ったり、可能な方は、自分で配膳下膳を行い洗い物まで行っている。車椅子の方には、食器拭きなど出来る事をして貰っている。	/	/	◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	食事の後の食器拭きが、日課となっている。利用者から「拭くもの無いですか？」の声がかかる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前のアセスメントで確認している。苦手なものについては気をつけて提供している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立はその日の調理担当者が決めている。そのため旬の野菜を続けて提供する事もあるが、味付けや調理方法を工夫してくれている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	利用者一人ひとりの状態に適した携帯で提供している。(刻み・荒刻み・小刻み・ミキサー食など)	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は事業所のものを使っているが、状態によって重さ・大きさを検討し使用してもらっている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	介助しながら一緒に食べている。時折、世間話をしながら楽しい食事の時間が提供できるよう努めている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	無理の無い程度に離床し、皆と一緒に食事が出来るようにしている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士はいないが、食事量や水分量は不足している場合には栄養補助食品等で補って貰っている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	栄養士はいないが、食事量や水分量は不足している場合には栄養補助食品等で補って貰っている。水分はお茶に限らず、いろんな物で工夫し摂取して貰っている	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士はいない。献立は調理専門の職員に任せているが、基本、揚げ物は昼に、夜は魚料理をメインに提供している。	/	/	x			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食事に関わる職員は手洗いを徹底し、体調管理も気をつけている。	/	/	/			

愛媛県グループホームぽかぽか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	内部研修にも取り上げている。毎食後の口腔ケアは習慣づけられている。	/	/	/	介助が必要な利用者だけでなく、自分で歯磨きができる利用者にも付き添い口腔内の状況を確認し清潔保持に努めているが、不十分と感じる部分もあるため、職員が異常等に早めに気付けるよう、日頃から利用者個々の口腔内の状況を確認しケアの徹底に努めて欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	完全には把握できていないが、症状の訴えがあれば、看護師に報告し受診等の対応をしている	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科衛生士の方からの講習は受けた事がある。毎食後の口腔ケアは習慣付けられている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	就寝前に洗浄液につけて手入れしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、口腔ケアの声かけを行い実施している。出来ない方は職員が介助している。	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	必要時に家族に連絡して了解をもらってから歯科医の往診又は受診に行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレでの排泄ができるよう努めている。定期的なトイレ誘導を行い清潔をが保てる支援を心がけている。	/	/	/	日中は、利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせ誘導するなど、トイレでの排泄支援に努めている。おむつやパッドの必要性について、職員間で見直しを含めて話し合い、それらに頼りすぎないように努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	排泄チェック表で管理し、看護師と連携を図っている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表で管理し、把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	使用量が増えると金銭的にも負担が増すため、一人ひとりの排泄のタイミングを把握するように努めている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	しっかり水分が摂取できるよう声掛けを行っている。日中、体を動かす機会を作っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表で管理している。訴えの出来ない利用者にはタイミングを見計らって声掛けをしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	一人ひとりの状態を把握し、使い分けしている。変更する場合は本人・家族に説明し了解を得ようとしている	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	一人ひとりの状態を把握し、使い分けしている。変更する場合は本人・家族に説明し了解を得ようとしている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	こまめな水分摂取を行って頂くために、お茶意外にジュース・コーヒー・など工夫し提供している。体を動かす機会をつくりできる限り自然排便を促している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴日の設定はあるが、その日の状態によって臨機応変に対応している。同性介助にも配慮している。	◎	/	○	入浴日は決めているが、利用者の希望があれば浴えるよう努めている。車椅子の利用者も職員2人体制で介助し、湯船に浸かり温まってもらえるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	入浴中に会話を交えながらゆっくり湯舟に浸かりくつろげるよう支援している	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	可能な範囲は自力で行って頂いている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	様子を見て声掛けを行い、拒否される時は無理強いしないようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルを確認し、看護師と相談しながら介助している。	/	/	/	

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録や申し送りにて把握している	/	/	/	不眠が続くやむを得ない場合は、主治医に相談し薬剤を処方してもらうことはあるが、日中活動量を増やすなど、安易に薬剤に頼りすぎない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転を防ぐよう日中の活動を増やせる支援に努めている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の活動を増やし、薬に頼らなくても睡眠が取れるよう支援している。往診時に状態を報告し、服薬の調整も行っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	昼食後に休憩時間を設けている。自由に自分の時間を過ごして頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	希望される場合は支援している	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	家族に電話をした時に、本人に変わって声を聞いてもらったりしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	希望される時に支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	手紙の返事を書くのは難しいため、電話で対応している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	不穏時に家族の声を聞くと落ち着かれる方もいるため、家族に協力をお願いする事もある	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	お金は所持していないが、買い物への同行は交代で行っている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	買い物に交代で同行してレジと一緒に並んで貰っている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	大型スーパーでは難しいが、地域のお店では声を掛けて頂いている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	高額のお金は所持しないか、事務所で預かっている。買い物に同行されたときに欲しいものを購入できるように支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	所持している方は、金額を把握させて貰っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理できる方が少なく、必要な物は家族に了解を頂きホームで立て替えて購入するようにしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族の都合で受診が難しい場合などホームで対応している	◎	/	○	病院受診や墓参り等、家族の付き添いができない場合は、職員が同行するなど、柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	玄関を自由に入出入りできるよう開放しており、階段に花を飾ったり水槽を設置したりしている	◎	○	○	階段に花を飾ったり玄関軒下の水槽で金魚を飼育したりすることで、来訪者の気持ちを和ませており、入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	室内の装飾は、利用者が季節ごとに作成した作品を飾り、花を飾って利用者が水遣りなどの世話が出来るようにしている	○	○	○	利用者の季節ごとの作品が壁に飾られているほか、季節の花を飾るなど、家庭的な雰囲気になっている。毎日利用者が廊下や居室を自分で清掃するほか、定期的に換気を行うなど清潔感が感じられる。桃の節句には、ひな人形が両ユニット共有の畳コーナーに飾られるなど、季節感が感じられ家庭的な雰囲気になっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日利用者と一緒に掃除を行っている。定期的に換気を行い臭いにも注意している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビング中央には畳みの間があり、季節のクラフトを飾ったりお雛様や兜飾りを時期に合わせて展示したりしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	座席は決まってはいるが、状況に応じて自由に移動し談笑できるようにしている。自由に居室に戻り過ごして頂いている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	構造上、見えないようになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	タンスや鏡台など自宅で使い慣れた物を持参したり、クラフト作品や写真を飾っている	○	/	/	たんすやベッド、テレビ等が備え付けられ、馴染みの家具など使い慣れたものや思い出の写真を置いており、利用者にとって居心地良く過ごせる居室になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ホーム廊下には安心して歩けるよう手すりをつけ、障害となる物を置かないように気をつけている。車椅子がすれ違う事の出来る幅を確保している。	/	/	○	車椅子利用者も自走でき、トイレでの立ち上がり際には立位訓練を取り入れるなど、生活の中でできるリハビリに取り組んでもらっている。居室やトイレの入口をわかりやすく表示し、廊下の足元等には障害物を置かないようにするなど、利用者が安全に自立した生活が送れるよう支援している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室のつくりやデザインが一緒であるため、入口に大きく名前を表示している。トイレやお風呂にも分りやすく大きく表示している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	掃除道具・レクの道具・個々のコップやお膳など、分りやすい所において、必要ときにいつでも取れるようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	日中はすべてを開錠している。利用者・来客が自由に入出入りできるようにしている。身体拘束の内部研修を行い施錠することの弊害について学んでいる。また、職員は離脱事故のないよう気を付けている。	◎	◎	◎	職員は玄関に鍵をかけることの弊害について理解しており、日中玄関は施錠されておらず、自由に入出入りできるようになっている。職員は、利用者が外出したい時に希望に沿えるよう、常に寄り添い同行するなど安全確保に努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	現在、施錠を望むご家族はおりませんが、その際にはきちんと見守りを行い安全確保に努めていることを説明し理解して頂くよう努める。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	ストレスとならないように、自由に入出入りできるようにしている。その際には、さりげなく見守りを行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個人別にファイルを作成いつでも見られるようにしているが把握できていない職員もいると思う。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	変化や異常が見られた場合、職員間で情報を共有できるよう介護記録に記入している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	異変時は看護師へ報告し、適切な医療・看護を提供できるよう努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	希望のある場合、入所前からのかかりつけ医が受診できるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	かかりつけ医には必要な情報を提供し適切な医療が受けられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	緊急時には受診に立ち会って頂き、結果と一緒に聞いてもらっている。その他の受診結果は、受診に同行した職員から詳しく報告し説明している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時情報提供所を作成し情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	ケアマネを中心に病院関係者との連携を図っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	救急病院への搬送が多く関係づくりはあまり出来ていない				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気になることは看護師に報告している。看護師より協力医に上申し指示を受けるようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間オンコール体制を取っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	早期に異変に気付けるよう注意観察している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	薬情は見られるようになっているが、すべて把握できている職員は少ないと思う				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋の名前を確認しながら誤薬の無いよう気を付けている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	何らかの変化が見られる場合は、看護師に報告し対応している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	緩下剤については看護師と相談し調整している。				

愛媛県グループホームぽかぽか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態が変化することにより、ご家族・利用者への意向確認を行っている				利用者や家族の希望に寄り添いながら看取り支援を行っており、主治医や看護師、職員等関係者を交え、重度化や終末期等の対応について話し合い方針を共有している。終末期に家族が利用者の居室に泊まれるよう配慮するなど、穏やかに最期を迎えられるよう支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	家族・協力医・看護師・管理者等で利用者の状況を話し合い今後の方針を決めている。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	協力医・看護師の指示のもと、係わる職員それぞれが、できる事で利用者を支えていければいいと思っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取り期に入る前に、きちんとホームで出来る事を説明している。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	看護師を中心に連携が図れている。利用者と家族と一緒に過ごしやすい環境作りにも努めている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時は報告を兼ねて話をする時間を作っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	年1回内部研修を実施し勉強している。実践形式での研修も行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症対応マニュアルを作成している。偽吐しゃ物のふき取り方や汚物の処理方法を実践し訓練している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	市町村からの情報や地域での発生状況を確認しながら、予防に努めている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の学校での発生状況などを参考にしている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	来客用に玄関先にマスク・消毒液を設置している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	気分転換に外出をお願いしたり、ホームのイベントに参加してもらい一緒に過ごす機会を作っている。	/	/	/	おかしづくりや餅つき大会など事業所の行事に、利用者と一緒に過ごしてもらえるよう家族に案内している。定期的にホーム新聞を送付し、電話連絡なども行い事業所での利用者の様子を伝えている。職員の異動や設備の改修などについては、ホーム新聞等を活用するなど、家族に報告するよう努めて欲しい。家族の面会時には、職員からの声かけを徹底し、話しやすい雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会はいつでもでき、自室や応接室でゆっくり時間を気にせず過ごしてもらえるよう配慮している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	運ご家族と利用者が一緒にお菓子作りやクラフト作成をしたり年末には餅つき大会を開催しているが、参加されるご家族は限られている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	ホーム新聞を送ったり、面会時には利用者の様子を報告している。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	家族の言葉を聞こうと心掛けているが、不十分である。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	気になる事や、ケアの方向性については、その都度ご家族に知らせるようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事の報告はしているが、利用者に負担のかからない変更事項や職員の移動等の報告は行っていない。	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	イベントへの参加を呼び掛けたりしているが、来られる家族は限られている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	面会時や電話で報告相談をさせてもらっている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時には声掛けをさせてもらっている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には、分かりやすい言葉で説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	利用者・ご家族と話し合い、利用者の状況に適した転居先を探すように努めている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	改定時には書面等でご家族に知らせ、同意を得るようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームぽかぽか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	運営推進会議やホームでの行事を機会としているが参加が少ない。	/	◎	/	毎年祭りや文化祭、運動会など、地域の行事に積極的に参加し、地域住民を事業所の餅つき大会に招待して交流するなど、地域とは深いつながりができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地区のお祭りや文化祭・運動会・その他行事に参加している。年末の餅つきにご近所さんを招待している。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	少しずつではあるが、声をかけてくれる方が増えている	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	人数は少ないが、野菜やミカンを差し入れてくれる方や、話をしに来られる方はいる。積極的に声掛けはしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	気軽にお付き合いが出来ている人は限られている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	定期的に歌や舞踊などの慰問はあるが、日常的な働きかけは行っていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の活用はあまり行っていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	同地域の特老との交流や消防署の協力・地域での買い物など取り組んではいるが、十分ではない	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	参加して下さる方は決まっており、新規で参加される方が少ない。	○	/	△	参加する家族や地域の方が限られているため、今後も声かけや日程調整を工夫するなど、参加者を増やす取組みが望まれる。運営推進会議では、外部評価の結果報告等について説明し報告している。会議で出された意見等について、事業所の運営に活かす取組みが不十分な感があるため、今後は職員間で話し合い検討する機会を設けるよう努めて欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の結果報告として推進会議で報告している。職員の自己評・外部評価の閲覧と目標達成計画の説明等を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	参加者からの意見や要望を聞くようにしている。サービスに活かせるよう取り組んでいるが報告はきちんと出ていない	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	メンバーの調整は出来ているが、日時については調整が難しく出来ていないこともある。	/	/	△	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	要望があれば閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	目に付くところに掲示している。理念にそってケアが実施できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	職員に対しては出来ているが、家族や地域の方には、わかりやすく伝えられてはいない。	○	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修の情報を提供している。人員不足ではあるが、シフトを調節しながら職員が交代で希望する研修に参加できるように努めている。	/	/	/	慰労会など、事業所外で職員同士が交流する機会を作っているが、ストレス軽減の取組みとしては不十分な感があるため、代表が管理者や職員のストレスチェックを行うなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んで欲しい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	業務にあたりながらその都度、指導するようにしている。資格取得には出来る限り協力している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回人事考課を実施し勤務状態や努力を考慮し賞与に反映している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	同業者との交流の機会は少ない。人員不足の影響もあり参加できていない状況である。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	慰労会などを開催してくれているが、十分な取り組みは出来ていない。	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	内部研修や外部研修に参加を促し、理解に努めている。正しい知識を身に付け、不適切なケアの無いよう努めている。	/	/	/	職員は日頃のケアで気になることがあれば、管理者に報告して対応するなど、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順等について理解し共有しており、不適切なケアが見過ごされることがないように職員全員で徹底し、支援に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	不適切なケアについては業務にあたりながら、職員と話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	気になることがあれば、管理者に報告している。職員間でも注意しあい気を付けるようにしている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ケアへの影響は出ていないが、人手不足の状況が職員に負担をかけているのが現状である。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束については年に2回は内部研修の議題に取り上げ理解に努めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束委員会で各利用者の状況を確認し、把握するよう努めている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からの拘束の要望は今までないが、もし要望があった時には、きちんと説明し納得できる代案を検討し理解してもらえる努める。	/	/	/	

愛媛県グループホームぽかぽか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	研修に参加したりしているが、内容が難しくすべてを理解できている職員は少ない。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族からの要望があれば、市町村の協力を得て相談に乗るようにしている。成年後見人制度は2度ほど利用している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	管理者や介護支援専門員を中心に関係機関の協力を得て相談に答えている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時マニュアルを作成し周知している。実際に起きた時は看護師と連携し対応できている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救命基礎研修を受講したり、消防署主催の研修にも可能な限り参加している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	インシデント報告書を作成し、職員間で閲覧し再発予防策を検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	その都度、職員間で情報を共有し、担当者を中心に予防策を検討し実施するようにしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルに基づき対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	受け手は責任を持って責任者に報告し対応するようにしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合には、出来る限り早期に回答できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の暮らしの中で、声掛けを行っているが、自ら相談できる利用者は少ない。	/	/	○	利用者からは、日々の生活の中で要望等を把握するようにしている。家族からは、面会時や電話で個別に意見や要望を聞いている。管理者と職員は、何でも相談できるような人間関係を築いており、職員の意見等を把握し、利用者の思いに沿えるよう職員会等で検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時や電話を掛ける際に、声掛けを行っている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	情報提供は十分には行えていない。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	頻繁に現場に足を運んでいるが、職員からは直接声をかけにくいように感じる。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	現場と一緒に業務にあたり声を聴くようにしている。提案等はプランに活かせるように取り組んでいる。	/	/	○	

愛媛県グループホームぽかぽか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	独自の項目での自己評価を年2回行っている。	/	/	/	運営推進会議で外部評価結果や目標達成計画について報告しているが、取り組み結果のモニターまでには至っていないため、今後の取り組みが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価で明らかになった議題に取り組むよう努力している。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	1つずつ実現に向けて取り組んでいるが、全体での取り組みは行っていない。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議に参加して頂いた方には報告しているが、モニターをして頂く取組は行っていない。	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議にて報告を行っている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	火災・地震・土砂災害・原子力災害のマニュアルを作成し周知している	/	/	/	緊急災害時の地域との連携はできていないのが現状である。今後は緊急災害時の利用者の安全確保に万全を期すため、地域との合同避難訓練に取り組むなど、連携強化に努めることが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間いろんな想定で年2回消防署の協力で利用者を交えて避難訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	担当者と協力し定期的に賞味期限等の点検を行い、補充している	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	地域との連携が十分には図れていない。	○	×	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	市町村合同の土砂災害の避難訓練には、参加させてもらっている	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	次回の運営推進会議を利用し、認知症サポーター養成研修を開催する予定である。	/	/	/	地域の相談支援は行っていない現状であるため、相談を受け付けていることを周知して、地域の相談ニーズ集約にも取り組んで欲しい。地域行事には参加しているが、地域関係機関等と協働の取組みは不十分なため、認知症ケアの実践力を活かしながら、市や地域包括支援センター等と連携を図って地域活動等に取り組む、地域の福祉拠点となる事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	今現在、相談等の支援は行っていない。	/	×	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用できていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	受け入れは行っていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の行事には積極的に参加するようにしているが、ホームからはあまり行動を起こせていない	/	/	△	